



Title	実践のためのチェックリスト
Author(s)	松本, 秀人; Matsumoto, Hideto
Description	第II部
Relation	観光と図書館の融合 = The fusion of tourism and libraries
Citation	CATS 叢書, 5, 129-144
Issue Date	2010-07-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43226
Rights	© 2010 松本秀人
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS05_010.pdf



実践のためのチェックリスト

このチェックリストは、本論の「第3章 融合の可能性についての具体的考察」をベースに、観光と図書館を融合させるために検討すべき項目をまとめたものである。

本論におけるスタンスを引き継いで、主に図書館の視点からみたリストとなっているが、地域の様々な立場の人々が図書館の活用を考える際にも活用することができよう。

幅広く目配りをしたつもりであるが、以下にあげた以外にも検討すべき項目はまだまだあるだろうし、また実施が困難であったり地域の実情にそぐわないものも含まれていると思われる。これを土台として項目を充実させ、それぞれの地域に応じたリストを作成していただきたい。

また、チェックリストに関連して、以下についても追加の論考を行い、簡単なメモとしてまとめた。これらも実践のための参考となれば幸いである。

●追加の論考

- 1 融合の理想的なイメージについて
- 2 地域の状況との関係について
- 3 「意識」の問題について

●チェックリスト

【総論として重要な項目】

- 地域における観光振興やまちづくり施策の確認。
- 周辺地域における観光振興やまちづくり施策の確認。それらが地域に及ぼす影響についての分析。広域連携の動向についての確認。
- 図書館の利用統計、地域の観光に関する統計など、各種統計数値の確認。必要に応じてアンケートなどによる実態調査の実施。
- 地域内の社会教育施設の現状の確認。図書館との連携状況の確認。
- 「観光と図書館の融合」という観点でみた現状の再確認。
- 参考になると思われる各地の事例収集。
- 図書館の設立主旨、運営計画、条例、組織、予算、管理、図書館協議会など、図書館の経営に関する項目全般の見直し。

【本論の項目別にまとめたリスト】

A 図書館の基本的な要素

A-1 資料

A-1-1 地域資料

- 所蔵している地域資料の再確認。
- 地域資料の目録作成。あるいは解題付きのパンフレットの作成。
- 「観光者に役立つ」「地域を紹介する」という観点から必要な資料の再確認。
- 地域資料の収集方針の見直し。
- 地域資料の収集において、地域住民と連携する方法の検討。
- 地域資料の中から、地域のエピソード、地域のお宝を発掘する作業。

- 地域住民にはよく知られているが、地域外にはあまり知られていない偉人やエピソードなどのパネル化。
- 地域史のわかりやすい年表の作成。
- 地域に関連する人物、事物などをまとめた「事典」の制作。
- 地域マップやガイドマップの制作。
- 「地域づくりを記録し、それを地域外にも周知する」という観点からの再検討。
- 地域資料の配架の工夫、館内サイン計画などの工夫。
- 視聴覚資料の展示や閲覧方法の工夫。
- 地域のミニコミや地方出版物との連携。コンテンツの活用についての検討。
- チラシ類や定点観測の写真など、多種多様な地域情報の収集。
- 研究機関で開発された新技術や、地場産業の動向などの情報収集。
- HPやメルマガ用コンテンツの情報源という観点からの見直し。
- 地域資料の外国語化。
- 地域住民らの自分史、歴史体験などの収集。
- 視聴覚資料のコンテンツの普及の工夫
- 地域内遺産の選定。
- 地域の偉人やエピソードの紙芝居化。あるいはパワーポイントによる電子紙芝居化。
- 「地域の新たな文化や伝統を創造する」という視点からの再活用。

A-1-2 地域テーマに沿った蔵書

- 地域テーマとして重点的にコレクションしていく内容や収書方針の検討。
- 地域テーマに沿った刊行物の丹念なチェックと購入。
- 地域テーマをさらに関連領域に広げていくという発想。
- 地域テーマをふまえた「図書目録」の制作。
- 配架の工夫。専用コーナーの設置。
- 地域住民を啓蒙するための積極的な周知と活用。
- 地域づくりやイベント・行事などとの連携。
- 地域内で注目を集めている観光資源についてチェックし、それを蔵書に反映させる。
- 地域の「日本一」「世界一」「ユニークさ」などに注目したコレクションの検討。

A-1-3 コレクション・文庫

- 所蔵しているコレクションや文庫について、「観光への活用」という観点からの再チェック。
- コレクションと、地域にある「碑」「像」「生家」「記念館」などとの連携。
- コレクションの展示方法の工夫。
- コレクションの解説パンフなどの用意。特に由来や地域との関わりについての説明。
- コレクションのデジタル化やHPなどでのアピールの工夫。
- 所蔵している貴重書や初版本などの再チェック。

A-1-4 資料全体との関連

- 蔵書構成において、図書館の個性を出すための工夫。
- 地域の読書傾向、住民構成、産業構成、歴史や文化と蔵書の関連について再チェック。
- 地域づくりや地域が目指す理念と蔵書の連携についての検討。
- 地域外利用者へ、図書館の個性をアピールする方法の検討。
- 地域で行われている様々なツアーへの蔵書の活用。
- 蔵書を活かしたガイド養成講座、観光振興講座などの実施。
- 地域における別荘や長期滞在者の図書館利用の実態調査。
- 「滞在型観光における利便性の提供」という観点からの再検討。
- 各国語資料の提供、掲示版などの多言語化など、外国人観光客への対応強化。
- 読書体験がもたらす効果(娯楽、教育、審美、脱日常など)を広くとらえて、「地域の観光資源との連携」という観点からの検討。

A-2 サービス

A-2-1 レファレンスサービス

- 地域文化や観光情報に関する切り抜きやファイルの用意。
- 地域文化や観光情報のレファレンス用データベースの作成。
- 観光情報に関する窓口を特に用意する。
- 「どこまで図書館で対応するか」「他の施設に確認すべき事項」など対応マニュアルの用意。
- 観光案内所などと連携して、よく受ける質問の回答集の作成。

- 地域内の様々な場所で発生する観光に関する質問を図書館で集約。(観光協会が集約する場合などでは、そのサポート)
- 地域住民の「レファレンスサービス」活用の促進。

A-2-2 イベント・行事

- 地域文化に関するイベントの実施。
- 地域の物産展や、地場産業と連携したイベントの実施。
- 新たな地域文化の創造にむけた取り組みへの支援。
- 他の地域の地域文化などを紹介したイベントの実施。
- 地域のキーパーソン、地元出身の著名人などを講師とするイベントの実施。
- イベントの周知方法の工夫。
- イベントと所蔵資料との連携の工夫。

A-2-3 様々なサービスとの関連

- 図書館で実施されている新たなサービスの地域外への周知を意識。
- 「観光支援」という観点でのサービスの検討。
- 「交流支援」という観点でのサービスの検討。
- 「地場産業の地域外周知」という観点でのサービスの検討。
- 学会、コンベンション、様々な集会などに対して、団体貸し出しの活用の検討。
- 点字図書、大活字本などを「観光者に対する便宜提供」という観点からの見直し。
- 身体の不自由な観光者に対するサービスの工夫。
- 移動図書館を観光の場で活用する方法の検討。
- 地域内の様々な施設における「図書コーナー」について、図書館によるサポートの実施。
- 健康増進(ヘルスツーリズム)、野外活動(スポーツツーリズム)、農業支援(アグリツーリズム)など、地域遺産(ヘリテージツーリズム)など、ニューツーリズムに関連したサービスの検討。
- 観光者に対して、地域の名産品などを試供・提供するコーナーの設置。

A-3 施設

A-3-1 設計やデザインの効果

- 施設のユニークさをHPなどで積極的にアピール。
- デザインや設計意図などについて、わかりやすい解説パネルやパンフの用意。
- 建物に関心を持って来場した利用者に対する案内の工夫。
- 地域資料の案内や、地域テーマに沿った蔵書の紹介など、地域外からの利用者への配慮。
- 館内表示の多言語化。
- マスコットキャラやディスプレイの工夫などによる、親しみやすさや地域文化の演出。
- 館内の案内モニター、音声ガイドなどの活用。

A-3-2 複合施設の効果

- 併設施設との運営面での様々な連携の工夫。
- 併設施設間の動線の工夫。
- 併設施設間で、お互いの所蔵品・所蔵資料などを紹介したり案内し合う工夫。
- 併設施設を含めた包括的な見学・ツアールートの設定。
- 図書館の比較的近隣にある観光関連施設・観光資源の再チェック。
- 公共交通機関の運行ルートや運行時間の工夫、周辺道路や駐車場の整備など、図書館へのアクセスの改善。
- 館内施設のうち、特にトイレ、ロッカー、休憩用ベンチ、自販機など観光者の利用頻度が高いと思われるものの整備。
- 館内や隣接施設における喫茶・飲食、物販コーナーなどの工夫と連携。
- 朝市や物産展の実施など、図書館周辺スペースの有効活用。
- 観光協会が作成するガイドマップなどにおいて、図書館の存在感をアピール。
- 駅や道の駅に隣接する館などにおいて、交通機関と連携した、あるいは交通機関による利用を意識した運営の工夫。
- 案内用モニターの設置や観光ガイド系情報の充実など、「観光情報・地域情報の窓口」という観点からの見直し。

★その他の利便性への配慮

- 開館日や開館時間の工夫。
 - －地域の祭りやイベントに配慮した設定。
 - －地域における観光者の観光行動の特性や交通機関の状況などをふまえた設定。
- 観光者に対する貸し出しや返却の容易さへの配慮。

B 地域社会との関連

B-1 まちづくりとの連携

- 地域振興やまちづくり施策との連携。
- まちづくりのコアとして活動している団体等との連携
- 行政資料や統計などの収集と提供。
- まちづくりにおいて、図書館がはたしている役割を積極的にアピール。
- まちづくりの成功事例についての情報収集。
- 「まちづくりの記録を図書館に残す」という観点での役割分担。
- 地域のアニバーサリー（市政〇〇周年記念など）行事との連携。
- 「読書指導を通じたまちづくり」のような図書館の特性を活かした活動の検討。

B-2 様々な連携

- 行政、市民団体、企業、研究機関、教育機関など、総合的な連携の見直し。
- 観光協会、商工会議所、フィルムコミッションなど観光に関連する諸団体との連携。
- 運輸業、宿泊業、飲食業や、土産物店、旅行代理店、集客施設など観光関連産業との連携。
- 博物館、美術館、郷土資料館など社会教育施設との連携。
- 地域で活躍するスポーツチーム、劇団、パフォーマンスグループなど興業系団体との連携。
- 地域の祭り、行事、イベント、スポーツ大会など様々なイベントとの連携。
- 地域文化や産業遺産の保存会、「戦争体験を語る会」など文化、地域史、伝統に関連する諸団体との連携。
- 読書クラブ、読書サークルなどとの連携。
- ミニコミ、地方出版社、地元FM局など、地域メディアとの連携。

- 地元の(あるいは地元出身の) 著名人、文化人、キーパーソンとのネットワークづくり。
- デザイナー、プランナー、プロデューサー、コーディネイターなど、地域で創造的な活動の中核を担っているクリエイティブクラスとのネットワークづくり。
- 図書館の「本館－分館」ネットワークのより多角的な活用。
- 広域連携や図書館協力、図書館同士の交流のより多角的な活用。
- 姉妹都市や平素から交流がよく行われている都市との連携強化。
- 地元が舞台になっている小説、ドラマ、アニメ、映画などの情報収集。

B-3 交流の場としての図書館

- 地域内交流を促進するために図書館ができることの見直し。
- 地域内と地域外との交流を促進するために図書館ができることの見直し。
- 図書館運営に対する地域住民の参加促進。
- 「図書館友の会」など、図書館をコアとするコミュニティの形成。
- 「地域文化保存会」など、図書館が先導役・媒介役となるコミュニティづくり。
- 資料の提供、場の提供、ノウハウの提供などを通じて、地域住民の様々な活動のバックアップ。
- 地元出身の著名人や地域のキーパーソンとのネットワークづくり。
- ボランティア活動の場としての受け入れ態勢の整備。
- 定年退職者、ニート、不登校児など様々な状況の人々に対する交流の場の提供。
- 図書館を遊び場として活用したり、コンサート会場にするなど、図書館に親しみを持ってもらうための工夫。
- 図書館員のホスピタリティの向上についての研修。

C インターネットの発達との関連

C-1 デジタル・アーカイブズによる情報提供

- 所蔵資料のデジタル化について、その対象選定や優先順位、費用、方法などの検討。
- デジタル化におけるファイル形式、名前付け、キーワード設定、ビューワなどの検討。
- デジタル化後の原資料の展示・公開方法についての検討。
- 所蔵している様々な関連資料とデジタルデータとのリンク。

- 地元メディアや諸団体などが保有するコンテンツとの連携やリンク。
- DVD化による保存・配布・展示についての検討。
- レトロブーム、歴史ドラマなど、世間の関心の高さに応じたデジタル化の推進。
- 行政機関の様々な資料のデジタル化のサポート。
- よくネットで閲覧されている資料の傾向と分析。

C-2 情報発信の多様化

- 「地域情報の発信」という観点によるHPの充実。
- HPの閲覧のしやすさへの配慮。
- HPアクセスの状況解析とその対策。
- 関連するHPとの相互リンク、バナーなどの工夫。
- HPと紙媒体による広報などとの使い分けの工夫。
- モバイル端末への情報提供、メールマガジン、ブログ、ツイッターなど、多様な情報発信の工夫。
- 静止画や動画の共有サイトの利用による周知方法の工夫。
- メールでの問い合わせに対する素早い返信、関係各部署へのCCなど、情報コミュニケーションへの留意。
- ネット関連技術の習得や動向への目配り。
- 通信用端末や電子書籍など関連技術への目配り。

C-3 ネットコミュニティの影響

- 自館がネット上で話題になっていないかの確認。
- 地域の観光資源が、ネット上でどのような評判になっているかの確認。
- ネット上で話題になっている図書館や図書館関連情報のチェック。
- 図書館や図書館員によるブログやメールマガジンを参考にする。
- 図書館員がネットコミュニティに参加して情報を収集する。
- 雑誌や新聞記事のネット上での検索、RSSの収集などにより、「観光と図書館」に関連する事例の網羅的な収集。
- ネット接続ができる環境を提供することにより、観光者が図書館において、旅先でのブログ更新

やHP閲覧などをしやすいように便宜を図る。

D その他

D-1 図書館への視察・見学

- 視察の受け入れを、地域文化の紹介に結びつける工夫。
- 視察の受け入れを、図書館以外の交流にも結びつける工夫。
- 視察受け入れ後に継続的な交流を行ったり、地域の勉強会やイベントへ招待するなどの配慮。
- 他館への視察(訪問)時に、その地域の様々な交流も併せて行うことへの配慮。
- 見学コースの設定や配布資料、「お土産」の工夫などによる、見学者への配慮。
- 他の施設・機関との連携による、視察や見学に対する地域内での総合的な対応。
- 図書館と野生動物の共存。(←図書館周辺で見られる野生動物が話題になることもあるので)

D-2 図書館とツアー

- 図書館を訪問対象に組み込んだツアーの実施。
- 「書庫ツアー」「一日職員」など、図書館の裏側(バックヤード)を見せるツアーの実施。
- 図書館が主催者となるツアーの実施。
- 図書館が協力したりバックアップするポジションによるツアーの実施。
- 「スタンプラリー」など、図書館への訪問を促進する工夫。
- 地域における様々な観光ツアーの創造や検討に対するサポート。

【効果からみたチェックリスト】

1) 集客効果を高めるための工夫

- 図書館の個性や所蔵資料のアピール。
- サイン計画やデザインの工夫。
- ユニバーサルデザインへの配慮。
- 観光者を受け入れる際の諸点についての検討。(例えば、サービスの提供範囲についての検討、対応マニュアルの用意、見学団体の受け入れ態勢など)

2) 補助効果を高めるための工夫

- 地域の観光資源の再確認と、それらを理解するのに役立つ資料の提供。
- 地域の観光関連団体、観光産業、集客施設などとの連携。
- 地域のイベントや行事についての情報収集と連携。
- 地域住民に対して、平素からの図書館の役割の周知。

3) 情報発信効果を高めるための工夫

- HPのコンテンツの充実。
- 観光スポットなどにおける観光者への情報提供。
- 観光関連団体への情報提供。
- ブログやメールマガジンなど情報発信手段の多角化。
- 地域の情報拠点としての役割の強化。

●追加の論考

1 融合の理想的なイメージについて

本論では、「観光と図書館が融合することによって、様々な価値が創造される可能性がある」と述べた。これをふまえつつ、両者の融合がうまく進んでいる状況の理想的なイメージを断片的にスケッチしてみよう。

①観光者からみたイメージ

観光者は「図書館に行けば、地域の様々な情報が得られる」ということを承知するようになり、実際に観光をしている最中に現地の図書館に行き、地域資料を読んだり、図書館員にあれこれと現地のことを質問したりする。

また観光前の事前調査として、居住地の図書館で下調べをしたり、訪問予定地の図書館のHPをチェックしたりする。この時、現地の昔の絵はがきや古地図などをデジタルアーカイブズで閲覧して、より多彩な情報を得ることができる。

滞在中には、現地を舞台にした小説を借りてホテルで読んだり、外国人旅行者であれば、翻訳されたガイドブックを借りて旅行に役立てる。時間に余裕があれば、図書館で催されるイベントに参加したり、講演会などで交流を深めたりする。

駅で列車を待つための空き時間を利用して、ふと立ち寄った図書館で現地の観光情報を得て、思わず予定を変更して観光を楽しんだりする。

②図書館からみたイメージ

図書館は観光者も利用者として十分に意識するようになり、観光目的をはじめとする地域外からの様々な訪問者に役立つようなサービスの提供を心がけるようになる。

地域資料の整備を進めたり、様々な施設や団体と連携して、観光情報の収集と提供に務め、観光者の訪問に対応する。

地域テーマに沿った図書を充実させたり、伝統文化や自然を紹介した視聴覚資料を揃えるなどにより、所蔵資料に地域的な個性を持たせ、観光者が地域文化を理解することをサポートする。これは地域住民にとっても自文化の確認や学習に役立つことなので、大いに歓迎される。

また、地域の様々な情報の取材や集約、資料のデジタル化などによってHPのコンテンツを充実させ、地域情報の発信を通じて地域への関心を高めて、観光者の集客に貢献する。

施設面では、観光者が訪問したり、情報を得たり、休憩などがしやすくなるように、館内の案内や設備、開館時間などを工夫する。

③地域からみたイメージ

図書館を地域文化の維持、創造、発展の拠点、地域外への情報発信の拠点というとらえかたを地域住民や行政、地場産業などがするようになり、図書館の持つ資料や施設やノウハウを、観光振興やまちづくりの様々な場面で活かそうとする。

また「交流の場」という認識を持つことで、観光者の疑問に答えたり、地域についての意見や感想を訊いたり、観光者向けのイベントを開催するなどして、地域外と地域との交流に役立てることを考えるようになる。

さらに、地域の様々な暗黙知を形式知にするための活動を地域全体が協働して行うことにより、地域文化に関する資料をさらに充実させていく。そのようにして制作された資料を図書館を通じて観光者にプレゼンテーションすることで、地域の誇りを示す場として、図書館が活用されるようになる。

以上で述べたことを端的にまとめると、「図書館が地域の情報センターとして、観光やまちづくりの場面で存在感を増す」と表現できよう。

もし、「“観光と図書館の融合”というテーマに興味はあるが、具体的な状況が想像しにくい」という場合は、前述したようなイメージを思い浮かべながら、それぞれの地域に特有の事情を重ね合わせて、「観光者と地域にどういう便宜を図ることができるか」という観点から発想をふくらませるとよいと思われる。

2 地域の状況との関係について

「観光と図書館の融合」というテーマを考える際に、図書館のおかれた地域の状況が取り組み方にも大きく影響を与えることはいうまでもない。細かくみていけば様々なバリエーションがありうるが、とりあえず大まかに以下3つのシチュエーションについて、その対応を考えてみよう。

①すでに観光地として認知されている場合

この場合、地域内には観光資源もあり、観光者の出入りもあり、観光に対する基本的な意識が地域内に存在していると考えられる。従って、図書館においても、それなりに観光者への対応をこれまで行ってきたと思われる。

しかし、最近では観光行動も高度化・多様化してきているため、たんに名所旧跡を見せるだけのものや、話題性を狙った一過性のイベントや、とってつけたような名物などは、すぐに飽きられてしまう。地域の観光を持続可能なものにするためには、地域文化をふまえた観光のあり方について、改めて見直すことが必要である。また、「体験」や「学習」といった要素を加えていくこともポイントになる。

図書館も、観光行動が変化しつつあるという認識に立って、改めて観光者を利用者としてとらえなおし、よりきめの細かいサービスを心がけていくことが大切である。

また、こうした地域では、観光協会や観光関連産業、商工会議所などがすでに観光に関するノウハウを持っているので、そうしたセクターとの連携にも十分留意する必要がある。

②これから観光による地域づくりを進めていく場合

こうした地域では、まず地域全体で今後の地域のあり方を検討していく必要があるため、行政資料、統計、地域史など、図書館が所蔵する様々な資料の活用からスタートすべきである。また地域づくりの参考になりそうな事例の調査や資料集めにも図書館の協力が欠かせない。

特に、観光振興をする際の地域資源の見直しという点でいえば、いわゆる「地域のお宝探し」のためにも図書館の資料を大いに活用したい。地域資料の中に、地域ゆかりの偉人、民話やエピソード、独特な風俗・習慣・食文化などの手がかりを求めたり、古地図や絵はがき、かつての雑誌の特集記事や新聞記事の切り抜きなどもヒントになるだろう。必要があれば地域住民へヒヤリングを行ったり、地域文化に関する調査委員会を設けることもありうる。また観光振興に関する目的意識の共有のために、図書館で勉強会を開くといった活用方法もある。

さらに、観光者に対する地域としての受け入れ態勢の整備を進めるにあたっては、図書館のはたす役割を再確認する必要がある。例えば議論すべきテーマとして、「図書館も観光案内所としての役割を担うか」、「郷土資料館や記念館を新たに建設するか、それとも図書館がその役割を担うか」、「図書館の設備を観光者向けに改装するか」等々が考えられる。

これは別の面からみると、その地域の観光がなにを目指すかということと表裏一体である。「新

たな産業を促進するための観光」、「交流を重視し、リピータを確保したい観光」、「移住のきっかけとしての体験」、「地域文化の保存と再興」、「まちづくりの結果としての観光」等々、こんにちの観光振興は多様な目標を持つようになってきている。図書館も、そうした目標に沿って観光振興を担う支援機関としてとらえられ、地域に貢献していくことが必要である。

③都市部の場合

「観光」というと山や海へ行ったり温泉に入るといったイメージが先行しがちだが、「都市観光」も重要な観光のひとつである。都市観光では、都市のもつ華やかさや利便性の享受という側面と、その都市の歴史や文化の体感という大きく二つの側面がある。

利便性の点でいうと、図書館はその都市で開催されるイベントやコンベンションなど、いわゆる「MICE」(Meeting 、 Incentive 、 Convention 、 Exhibition)との連携を考慮することがポイントになるかもしれない。図書館の持つノウハウがこうした場面で活かされれば、その都市の MICE 競争力もアップするだろう。

歴史や文化の点でいうと、日本の都市は市街地の再開発、地名の変遷、住民の移動などにより、その歴史や文化を観光者が伺い知ることが難しい場合も多い。また職住分離や地域コミュニティの不在などの影響によって、地域住民の連帯意識も希薄になりがちである。そのような状況に対して、図書館がひとつの紐帯として役割をもつことができれば、都市部の文化の保存や継承に貢献ができるし、それは観光者にとっても有用である。

※なお、さらに考えてみると、上記の3パターン以外に、「④そもそも地域に図書館がない」というシチュエーションについても述べておいたほうがよいだろう。この場合は当然ながら、まず図書館の設立が必要になるが、逆にいえば、図書館がすでに存在している地域よりも、図書館の目的や方向性を自由に設定しやすい状況であるともいえる。図書館の設立構想段階において観光との融合を意識し、それに応じた立地条件、設計プラン、設備の導入、什器の選定、デザインの工夫、人員配置等々を総合的に検討することが可能である。ただし、図書館が「観光施設」化しすぎてしまうと、地域住民の本来の利用を阻害しかねないし、観光振興が節目を迎えた時に対応ができなくなるおそれもある。どこまで観光を意識した図書館とするかは、地域全体の目標を十分ふまえて検討される必要がある。

3 「意識」の問題について

「観光と図書館の融合」というテーマで観光関係者や図書館員などと話をしてみると、融合の実現にあたって考慮すべき要素が多いことも実感させられる。

今回の研究では踏み込んだ分析には至らなかったが、一例をあげると、観光振興の人材育成、図書館の予算や運営方法、地域情報の発信や受信のあり方、行政のスタンス(および首長のリーダーシップ)、住民の参加、地場産業の動向、交通手段の変化、人口動態、等々といった様々な要素が「観光と図書館の融合」に関与していると考えられ、しかもこれらは地域によってそれぞれ事情が異なり、さらに複合的に関連し合っているため、どこが要点であるかも簡単に指摘することは難しい。

このように最適なアプローチを設定しにくいテーマであるが、あえてその中で特に強調すべき点をひとつあげるとすると、まず「意識を変えていくこと」が重要であると思われる。もう少し具体的にいえば、「従来の“観光”や“図書館”の概念にとらわれることなく、様々な可能性を見いだしていこう」という意識が、両者の融合をよりスムーズに進める鍵だと考えられるのである。

日本の各地で、観光について様々なアイデアが試みられ、観光のイメージも変わりつつある。一方、図書館でも新たな試みが各地でなされているものの、図書館の一般的なイメージには、あまり大きな変化がないようにも感じられる。図書館員自身は図書館界のニュースや話題に敏感であるとしても、地域住民は図書館の動向に目配りをしていないとは限らず、住民や行政の側から自発的に図書館に対する見方が変わるということはなかなか想像しにくい。本研究に関連していえば、そもそも「図書館に地域のことがわかる資料がある」、「図書館員にいろいろな質問ができる」、「全国の図書館はどれも同じではない」といったことすら知らない人も大勢いるのである。

従って、図書館が地域で新たな役割を担おうとする場合は、図書館自身がまず平素の活動を十分に周知しつつ、さらに自館の可能性を信じて、新たな試みに向かっていく姿勢を地域に対して積極的に提示し、意図を説明することによって、図書館に対する認識を変えていくことが必要になるだろう。「図書館は多様な能力を持っており、それを様々な場面で活用できる可能性を秘めている」という認識を地域で共有することによって、「その能力や可能性を、もっと観光にも役立てていこう」という意識も導かれる。そして、それは観光との融合のみならず、図書館と地域とのより豊かな関係を築くためにも有益なことではないだろうか。